

唇を横に引っ張ってしまう誤りは「エ」でもよく送りますが、原因は「息の力不足」です。そろそろ忘れる頃ですが、横隔膜を使ったしっかりした支えの息を維持しないと縦に作った「イ」が「イ」になりません。そのため横に一引っ張って無理やり「イ」にするという間違えを起こします。

「イ」母音は通り道が狭いので道さえしっかりできれば音が上がっていく練習に適しています。

下のド(もしくはシのフラットからでもよい)からオクターヴを

ドレミファソラシドレドシラソファミレド
と行き来してみましょう。

その時に必ず足の指を使って身体で息を送ること、一番上の音にはまっすぐ行かないで棚に物を入れるように迂回することを思い出してやってみましょう。すべてが一つの息でつながることが大事です。

発声練習はポジションを固めてしまわないために同じ母音、同じ音を繰り返さない方がよいのですが、この練習は音域が広いのであまり上下に動くのは難しいかもしれません。それでも前後の音程から半音ずつでもよいので上下して同じ音程を繰り返さないようにしてください。

この練習では上行よりも下行の方が難しいです。音が下りてくるときに支えが無くなって墜落しないように身体全体の力を使って着実に降りてきてください。山登りも発声も登りより下りの方が大変です。

「イ」のオクターヴが出来たら「ソ」からの5度下行(ソファミレド)で「イエア」の連結を練習しましょう。

基本的なことは「オエア」の連結と同じですが注意しなければならないのは範囲が広い「エ」を通過するとき「オエア」と「イエア」では通る場所が違うという事です。具体的なことは実際にやりながらでないとアドバイスできないのでとにかく「エ」が後ろに引っ込みすぎないように気を付けておきましょう。

ここまで「オ」「エ」「ア」「イ」の母音を取り上げてきましたが母音の得手不得手

には個人差があります。

これには口腔の形状、舌の長さ、体格などによる息の力も関係します。

ですので苦手な母音があってもあまり気にせず、やりやすい母音から練習しましょう。ただし気をつけたいのは どの母音も調音点は一定ではないことです。正しい場所を一つ見つければよいのではなく、前後の母音の関係や音程、子音との組み合わせによって狙うべき点は微妙に変化してくることを忘れないようにしましょう。

次は母音の中で最も難しい「ウ」に行きたいのですが、その前に以前少しお話しした「舌の使い方と鍛え方」についてボイトレ講座やレッスンで一つの方向性が見えてきていますので次回は舌について集中してお話ししたいと思います。

発声講座の内容がかなり複雑になってきています。

すぐにレスポンスできるかわかりませんがわからないことや疑問点がありましたらなんでも直接コンタクトを取って聞いてください。

「こういうところで困っている」という具体例をいただけるとこちらでもアドバイスしやすくなります。

繰り返しになりますが気温が下がってきてウイルスの活動が活発化しています。

手洗い、うがい、正しいマスクの装着(冬季は布ではなく不織布をお勧めします)、そして何よりも心身を健康に保ち免疫力を下げないことに注意しましょう。

石塚も心を蝕まれないようにしっかり頑張りたいと思います。

最後にお知らせです。(次ページに続く)

お知らせです

今年の年末は新国立劇場合唱団として東京交響楽団の第九に出演します。

東京交響楽団は本来「東響コーラス」という専属のアマチュア合唱団があるのですが今回リスク低減して第九を開催するため新国立劇場合唱団に依頼が来ました。東響さんのページに第九を開催するにあたっての対談記事がありますので是非ご一読ください。

「東京交響楽団 【特別対談】 今年、第九を演奏するということ」

<https://tokyosymphony.jp/pc/feature/interview15.html>

新国立劇場合唱団は今年読響、東フィル、N響と東響の四団体で第九の合唱を担当します。

テレビ放送がある読響やN響の第九には乗っていませんが

12/20(日) ミューザ川崎、

12/23(水) 初台オペラシティ、

12/28(月)と29(火)は六本木のサントリーホールで第九を歌います。

この状況ですので来てくださるとはなかなか申し上げにくいですが今年第九を歌えない皆さんの分もしっかりやりたいと思いますので応援していただければ幸いです。

また年明け 1月9日(土)は 川越やまぶき会館(11時開演)、
10(日)は池袋の としま区民センター(13時半開演)で
ニューイヤークンサート に出演します。

10日の方は約一年ぶりの「石塚組」主催公演です。

こちらの詳細は次回のメルマガでお知らせします。

可能な方で構いませんのでお運びいただければ嬉しいです。

10日はインターネットでの配信も計画しています。

我々がこれまで享受してきた音楽の力を信じて心身の健康を保ってよい年末年始を迎えましょう。

石塚もがんばります。

12月4日

石塚幹信